若人の広場公園

「戦没学徒記念若人の広場」は、先の大戦において、学業半ばでさまざまな軍需工場での生産に動員され、そこで亡くなった男女学徒を追悼する施設として、1967（昭和42）年に建設されました。戦地に向かった学徒も含めるとその数は約400万人に及び、そのうち約20万人余の学徒が亡くなりました。そうした若く尊い命を捧げた学徒の思いや戦争の悲惨さを後世に伝え、恒久平和を願う無二の施設であります。

世界的建築家の故・丹下健三氏（1913～2005年）の設計で、象徴的な鋭角に尖った塔が天空に向かって屹立している高さ25mの「記念塔」と、周囲が石垣の壁面からなる造形美が印象的な「展示資料館」が併設されていました。

記念塔の下部には「若者よ　天と地をつなぐ灯たれ」と記された「永遠の灯」が灯されていましたが、阪神・淡路大震災の被害などにより閉鎖を余儀なくされていました。

多くの再開を望む声を受け、丹下氏の設計思想が強く反映された当初の建築物としての魅力を最大限に活かした再整備を行い、地元の若者により採火された「永遠の灯」を灯し、恒久平和を願い、誓い合い、市民が憩える都市公園として、2013（平成25）年8月に工事着手し、戦後70年にあたる2015（平成27）年3月に完成、再び開園いたしました。

福良湾を見下ろす大見山（標高145m）に位置する「若人の広場公園」展望台からは雄大なパノラマが広がり、鳴門海峡を眺望することができます。

時には、雲の切れ間から降り注ぐ「天使のはしご」が現れ、鳴門海峡を神秘的な光で包みます。

南あわじ市

公園ゾーン（休憩棟、屋外舞台・展示スペース・トイレ）

入園無料

【開園時間】9時～17時
（季節により変動あり）

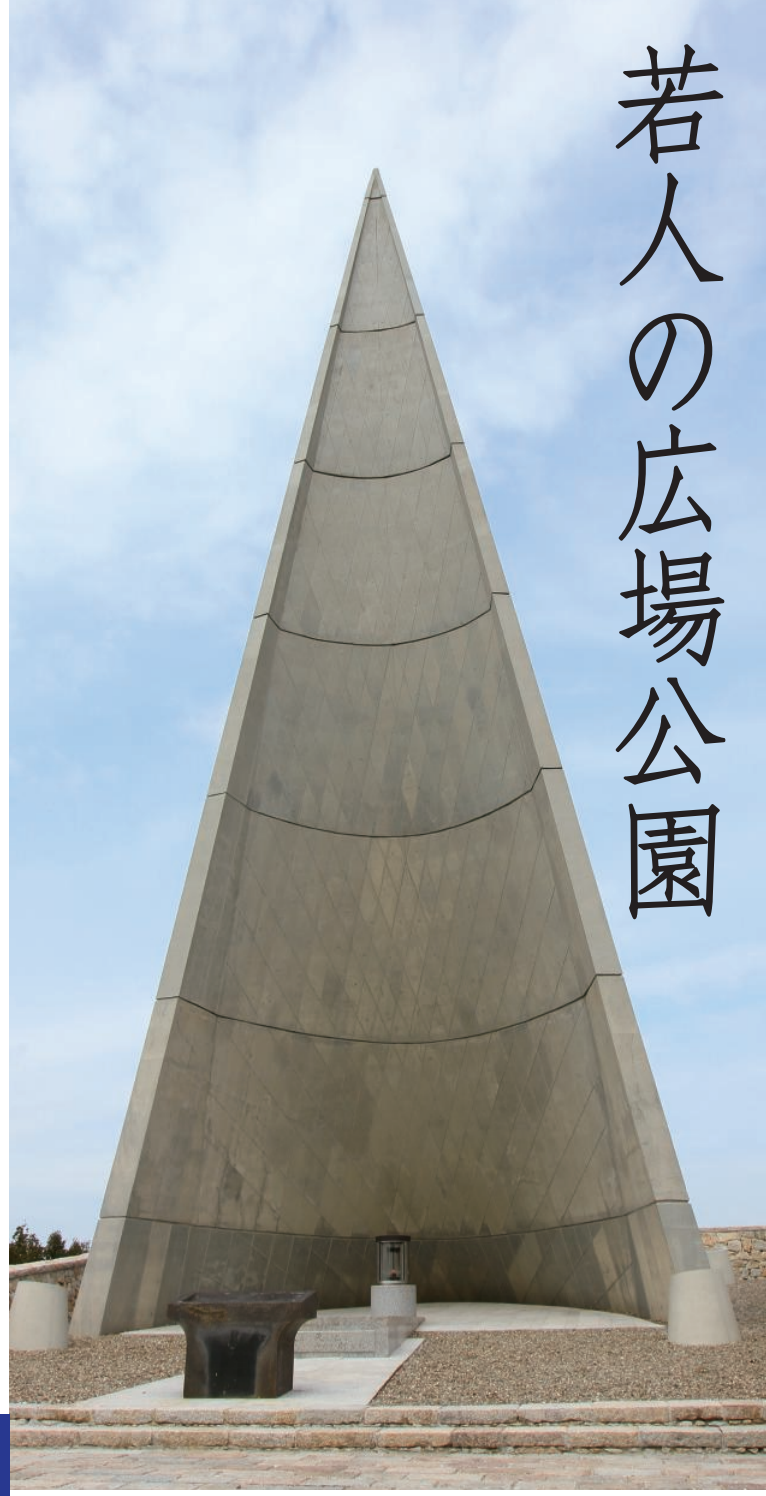
【駐車場】
27台・身障者用2台

【アクセス】
西淡三原ICから車で約25分
淡路島南ICから車で約20分

若人の広場公園

兵庫県南あわじ市阿万塩屋町2658番地7　大見山

お問い合わせ　若人の広場公園管理事務所　TEL.0799-55-2520



若人の広場公園

南あわじ市

絶景の景観

屋上展望台からは、眼下に広がる鳴門海峡があり、その海の向こうには徳島の地までも望める素晴らしいロケーションとなっています。

自然と調和した外観

▶石積みで仕上げた外壁の造形美がとても印象的です。

◀管理棟の屋上展望台には大階段で上がることができます。

若人の広場公園 概要

○所在地：兵庫県南あわじ市阿万塩屋町2658番地7　○公園面積：70,820.94㎡

記念塔（築造面積70.62㎡、高さ24.95m）
鉄筋コンクリート造／直接基礎構造

管理棟（延床面積726.48㎡、高さ12.273m）
鉄筋コンクリート造一部鉄骨鉄筋コンクリート造／直接基礎構造
（管理室、展示・研修スペース、休憩スペース、テラス、屋上展望台及びステージ、トイレ、自動販売機）
バリアフリー施設（スロープ、斜行型昇降設備、多目的トイレ）

公園ゾーン
○休憩所（東屋（延床面積33.64㎡・高さ4.4m）鉄筋コンクリート造／直接基礎構造、ミストシステム）
○屋外トイレ（延床面積44.65㎡・高さ4.279m）鉄筋コンクリート造／直接基礎構造
○屋外スペース（イベントスペース、アート展示スペース、舞台）
○駐車場（27台・身障者用2台）　○植樹帯

わだつみのこえ

本郷 新（1905−1980）

戦没学生記念像《わだつみのこえ》は、第二次大戦末期、学徒出陣により命を失った青年たちの遺稿集『きけわだつみのこえ』（1949年）の刊行収益をもとに、戦後の日本を代表する彫刻家 本郷新が制作したものです。

本郷は、若者たちが二度と軍服に身を包むことのないようにとの願いを込めて、すこやかで美しい青年の裸身を表現しました。うつむいた顎（あご）に右手を添え、左手を強く握りしめた独特のポーズには、若くして命を散らさねばならなかった者たちの「怒りと悲しみと煩闘（はんもん）」という複雑な感情が託されています。

本郷は後に「私はこの像を作るのに平和への祈りをこめた。反戦、平和の象徴としてこの像をみてもらえればいい」と語りました。

「わだつみ」の地、ここ鳴門海峡の潮騒が聞こえる景勝地に建立されたこの像には、世界の戦争・紛争で失われた尊い命への鎮魂と、恒久平和への願いが強く込められています。

永遠の灯（ともしび）

記念塔の下部には「若者よ　天と地をつなぐ灯たれ」と記された「永遠の灯」が灯されていましたが、阪神・淡路大震災の被害などにより途絶えたままの状態になっていました。

永遠の灯は、若くして、志半ばで亡くなった学徒たちの生命を悼むために、また、その生命が願ったものを道標として次の若い世代に伝えるために、この若人の広場にて、復活し、再び永遠に燃え続けます。

この火は、古くから人々の信仰の地で、霊場としても繁栄した淡路島最高峰、諭鶴羽（ゆづるは）山山頂近くに鎮座する諭鶴羽（ゆづるは）神社で、2015（平成27）年3月7日、終戦の年に誕生された方や、戦争の犠牲となった学徒と同年代の若者たちによって火を起こし、採火されたものです。

学徒遺品のパネル展示

■中野千鶴子さん

愛知県立新城高等女学校（現・新城中学）18歳

寄贈　中野信子氏

豊川海軍工廠に動員される。動員されてから永い間病欠していたが、1945年8月7日、豊川海軍工廠空爆の日、千鶴子さんは勤務に復帰していた。避難命令で避難した壕内でB29による直撃弾を受けるものの、何とか正門の近くまで逃げ延びる。しかしながら、今度はP51の掃討にさらされ、爆弾の破片が千鶴子さんの胸部を貫通する。国府高女の仮収容所に運ばれたが、苦しみぬいて、翌日亡くなった。

中野千鶴子さんのセーラー服

中野千鶴子さんのもんぺ

中野千鶴子さんの
三角の白布

中野千鶴子さんの
ガーゼと脱脂綿

中野千鶴子さんの下着

中野千鶴子さん本人の作ったベルト

中野千鶴子さんの肩掛けカバン
中野千鶴子さん本人が作ったもの

立命館大学国際平和ミュージアム（京都市北区）が所蔵する戦没学徒の遺品や略歴のデータをパネルにしたものです。